

第2回石巻地域普及活動検討会実施報告書

石巻農業改良普及センター

実施月日：令和6年2月9日

実施場所：JAいしのまき農業情報センター

1 検討内容

No	検討項目
1	令和5年度完了プロジェクト課題の実績 ①プロNo.2 地域のモデルとなる園芸法人の育成強化 ②プロNo.4 長面地域における大規模土地利用型経営体の持続的な水田農業の実現
2	継続プロジェクト課題の実績並びに次年度活動計画 ①プロNo.1 産地を形成する多様な担い手ステップアップによるいちごの産出額向上 ②プロNo.3 小ねぎ産地における次世代の人材育成
3	令和6年度新規プロジェクト課題活動計画 ①プロNo.3 水田におけるばれいしょ及びさつまいもの安定生産 ②プロNo.4 省力化技術の活用による優良大豆種子の生産性向上

2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	2	生活者	
若手・女性農業者	1	学識経験者	
市町村	2	マスコミ	
農業関係団体	2	民間企業	2

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
上記1 -No. 1 ①		<ul style="list-style-type: none">・ 気象変動や市場ニーズの変化、経済の悪化等、農業環境が厳しい状況で、農業法人が持つ課題の解消に寄り添った活動を行っていることが評価できる。・ 以前A社に農業士会で研修に行った際は、人手不足と管理体制に問題がありましたが、B社との人材交流で、少しずつですが向上しているようで安心しました。C社も環境制御を上手に利用して行ってほしいと思いました。・ 当初より危惧していたA社の経営改善において一旦融資が受けられたことに安堵した。一方、持続可能な大規模施設での経営において、収量や売上高も大事だがコストをどう抑えられるかが課題になってくると思う。最終的には収益が上がり、内部留保を確保するのが大事ではないかと。・ 昨年の評価時に損益分岐点と投資について話しましたが、環境制御による増収、資金償還見直し等で、改善が図られたのはよかったです。	技術支援による収量の向上と、コストチェック等経営的な視点を持ち合わせられるよう、今後も生産管理やキャッシュフローなどのチェックを対象者自らが定期的の実施するよう支援します。特にマネジメントサイクルで目標達成に向けて経営計画を立て実行し改善できるよう、対象者に伴走しながら支援を継続します。

	<ul style="list-style-type: none"> 園芸法人の課題については、総合的に収量の増減が経営に影響している例が多いため、目標設定としては良いものと思われます。今後の対応策として、目標に達成していない法人もありましたが、要因がはっきりしているため、マネジメントサイクル等により、法人が継続的に取り組めればと考えられます。（2年間の計画では難しいと思いますが） 	
<p>上記1 -No. 1②</p>	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災の影響で、農地の条件、状況が非常に悪くなった地区の土地利用型経営を復興すべく、よく考えて普及活動を行っていると考えます。 坪刈りの収量では10俵/10a収穫となっているが、実面積の収量が記載されていないので残念。今年度の備蓄米が少ないとの報道の中、飼料用米をこれからも作付けを続けるのが心配。 乾田直播栽培のメリットをどうインパクトをして打ち手を示すかがもう少しわかりやすく具体的に教示されていけば、長面地区の大規模土地利用の意義が多くの農業者に理解を得るのではないかと考える。（必要性を感じていない農業者がいること、現場でも疲弊気味？） 効果的な施肥や省力技術がしっかりと検証され、安定経営に向けた土台作りが行われたと思います。今年で課題終了とはなりますが、まだまだ支援の手が必要であることから継続した支援をお願いいたします。※WCSはその他。 被災地の水田農業の課題に、包括的に活動が展開されており、良い評価をするところです。地力や塩分の問題により不利な条件と見られがちですが、定量的数値目標で実収量が上回っている点も評価できる点です。 	<p>震災の影響による塩害や地力の乏しいほ場の再生支援として、堆肥の投入等による地道な地力増進支援に粘り強く取り組んできました。今後も、地盤や土壌の整備だけでなく、経営的視点から省力技術の導入誘導や作目の選定検討などについての支援を継続します。</p>
<p>上記1 -No. 2①</p>	<ul style="list-style-type: none"> 県内でも有数のいちご産地となっている当地区の発展のためにも、重点的な活動を期待する。栽培面積や生産量の増だけではなく、高品質、高評価の生産物を栽培することで、産出額の向上につなげてほしい。 歴史のある生産農家が環境制御に取り組む姿勢はすばらしいと思いました。先生方の後押しのおかげだと思えます。今年は市場価格が思うように上がらず、下落が早かったので、収量アップの御指導を今後もお願いします。 販売金額が増加傾向にあって、経常利益が伸び悩んでいるということは、人件費のコストをかけられないが作業工数は増えていることになるので、経営安定や、人手不足解消にはつながっていないのではと思った。こちらも同様に内部留保を増やし、担い手不足を人でカバーするのか？AIでカバーするのかなど検討の余地があると考えます。 2年目にして目標を大きく上回る実績となっているのは、客体数が多く、手間・時間・費用のかかる取り組みであるにもかかわらず、対象ごとの支援が行き届いた結果だと思えます。この取り組みが新規参入の掘り起こしのきっかけとなるよう期待します。 生産者を分類し課題と指導方向の設定や活動内容により、目標を上回る実績となり高い評価をするところです。 	<p>今後も生産者毎の課題に対応したオーダーメイドの技術指導、経営指導により、対象者個々が自らの課題を理解し、目的を持って解決に取り組むよう、対象者一人一人に寄り添った普及活動を展開します。特に燃料、資材高騰の中、コスト削減、生産性向上の両面から支援を継続します。</p>

<p>上記1 -No. 2②</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・農業現場が抱える後継者問題、人手不足の観点からも、産地の人材育成は重要と考えられるため、継続した普及活動を行ってほしい。 ・どの分野でも後継者不足が問題ですが、やはり桃生だけにこだわらず、スリムねぎの作付けを指導していただきたいと思ひます。新規参入に期待したいです。 ・小ねぎ（スリムネギ部会）の栽培のクオリティは素晴らしいものがあるので、これをこの部会内で留めることなく、石巻産のスリムネギとしてブランディングしていき、生産者の育成に努めていくことが今後の経営発展につながると思ひました。 ・後継者確保が進んでいない現状を打破するためのこの取り組みの意義は大きいと思ひています。部会全体が考え自発的な取り組みとなるよう期待します。 ・小ねぎはJAとしても重点品目の一つですので、組織として良い方向性をつけられればと思ひます。これまでも技術革新が組織を動かす事が多いので、説明された基礎的栽培技術や出荷調整施設の検討、又はやりのDXとして「ファーモ」などの導入なども一つの手法ではと思ひます。（JAの振興基金の対象） 	<p>農業における高齢化、人材不足は喫緊の課題であり、簡単には解決できない課題ですが、新たな技術や生産・出荷システムの導入などにより、産地に活気が生まれる、生産者自らが産地を維持する、人材不足の解消を考えるきっかけづくりを行い、活動を展開します。</p>
<p>上記1 -No. 3①</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・水田利用のばれいしょ、さつまいもの生産は当地区ではまだ始まったばかりで様々な課題があると考えられるが、栽培技術の普及や適地の選定なども含めて、今後につながる普及活動を望みます。 ・じゃがいもの生育がこのところの夏の猛暑で心配される材料が多いと思ひます。ブロックローテーションだけでなく生産地域の拡大は考えていけないか。 ・ばれいしょ、さつまいも共に、圃場の拡大化、機械化に対してどこまでコストをかけられるか、栽培農家が増えていく場合には、石巻ブランドを打ち出し、例えば共有の加工場（例えば干し芋の場合）を検討することも必要になるかと思ひました。 ・特にばれいしょは買う側から拡大を要望されており、JAも鋭意拡大の推進を行っています。そのための技術的な支援、特に圃場選定だと思ひますので、よろしくお願ひいたします。 ・大規模露地園芸の安定生産による定着・拡大を期待するところです。これまで当地区において定着しなかった要因として、生産面では排水対策や機械化一貫体系が取れなかった事。流通面としては流通先が定着しなかった事も課題と考えられます。JAとしても関係機関の支援体制が整っている今が、技術の定着・拡大時期のタイミングと考えているところですのでよろしくお願ひします。 	<p>ばれいしょ、さつまいもの生産振興に向けては、圃場選定、排水対策が最大ポイントです。さらなる産地の拡大に向けては、10haの規模を上回る生産の安定、定着が必要と考えますので、新技術の情報収集と提供、実践指導を徹底します。さらに、流通面においては有利で安定した価格を確保できるよう関係機関と連携を図り、大規模露地園芸の安定生産品目として確立できるよう活動を展開していきます。</p>

<p>上記1 -No. 3②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術が年々進歩する中、いち早くアグリテックの活用や様々な機械、技術を普及し生産向上に結びつくよう活動を期待します。 ・異常気象の中、大豆種子の生産は大変だと思います。ミヤギシロメは安定しているが、タンレイは病気に弱く、今後、各農家向け品種も考えては？と思う。 ・課題は要所にあるようだが、例えば選別作業のコストの課題が解消されれば、生産性の向上にもつながるのではないかと思った。 ・種子生産者を増やすためには必要な取り組みだと思います。省力化技術の活用をしっかりと検証いただくとともに、種子生産が敬遠される原因をしっかりと分析していただければと思います。 ・生産の基本的なところと考えますので、定着が図れるよう期待するところです。 	<p>対象者個々の種子生産のネックとなる生産技術、作業管理の明確化と、それに対応する技術対策の情報収集、アグリテック技術の導入の可能性等の模索により課題解決に向けた活動を展開します。</p> <p>本課題は種子大豆を対象にしたものですが、本活動で得た技術を通常の大豆栽培にも活用、応用し、管内の大豆生産の底上げにつなげるよう取り組みます。</p>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの農業とは全く違う気象状況になっているので、先生方のこれまでの以上の御指導をお願いします。 ・WCSは当JAが試験を含め3年間取り組んできました。特に収穫作業は、品質に重大な影響を及ぼすため、委託者・受託者・販売先との協議を含めて積み重ねてきたものです。それを機械を導入したので自分でやりますというのであれば、品質が変わりますので、今後、販売についての検討が必要になります。 	<p>気象条件に限らず、日々変化する農業情勢や新技術の確立等、速やかに現場に提供できるよう今後も普及指導員一人一人が情報収集等に努めていきます。</p> <p>引き続き関係機関との連携を密にし、生産現場への支援を行っていきますので、今後も御協力をお願いします。</p>